

赤十字

NEWS

<http://www.jrc.or.jp>

FEBRUARY 2019
NO.945

2

平成31年2月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第945号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

未来を育てる。



2005年、モンゴル。青少年赤十字国際交流事業に参加した群馬県立高崎高校2年生(当時)、大宮透さん

日本赤十字社は、青少年赤十字(Junior Red Cross = JRC)の活動を通じて、これからの日本、世界を支える青少年を育てています。
青少年赤十字の加盟者数は、幼稚園・保育所・小・中・高校・特別支援学校、合わせて全国に約330万人(約1万4120校)。
児童、生徒らの一人ひとりが赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つを実践目標として活動を行っています。
今号の特集では、JRC 活動で経験したことを成長の糧とし、社会で活躍する若者を紹介します。

CONTENTS

FEATURE__2・3

青少年赤十字で広がる世界

SPECIAL TOPICS__4・5

「赤十字救急法」講習が4月からリニューアル
防災・減災プロジェクト
私たちは、忘れない。

ドキドキ体験！
みんなのボランティア
「在宅訪問ボランティア」(富山県)

AREA NEWS__6・7

佐賀/九州ブロック/埼玉/京都/福島/全国/群馬/茨城/福井
健康豆知識「花粉症」

WORLD NEWS__8

ボスニア・ヘルツェゴビナ
移民流入問題
1枚の写真から:インドネシア



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。





長野県小布施町でさまざまな地域活性化事業に取り組む大宮さん(写真:前列中央)。1月には25歳~35歳の若者を対象に、革新的な町づくりを学ぶ2泊3日の研修会を開催。県内外から16人が参加した。この事業は経済産業省の「未来の教室」事業に採択されている。

現在

大宮 透 さん 内閣府認定「地域活性化伝道師」

長野県小布施町の政策研究員として取り組む地域活性化の活動が注目を集め、内閣府から「地域活性化伝道師」として認定を受ける。主催する「小布施若者会議」には全国から若者が集まり、魅力的な地域のあり方、課題解決型ビジネスなどを議論。参加者の長野県への移住や県内起業、大企業と町のコラボレーションなど、数多くの成果が生み出されている。

まで見慣れた街の風景がまるで違って見えて…。そして2年時には、JRCの国際交流派遣事業でモンゴルへ。「広大なモンゴルの草原、縄1つでも手作りする遊牧民の暮らし、会話は通じなくても気持ちが通じた人々との交流、そしてモンゴル国内の貧困問題…想像もしなかった世界に触れたことで、さらに世界が広がり、自分には選択肢や可能性がたくさんあると気づいたんです。言ってみればJRCは世界を知る窓でした。今、僕が力を入れている小布施での活動は、若い人たちにまず小布施町に来てもらい、町の課題を見つけ、気づきを得てもらおうもの。高校時代の僕はJRCメンバーと共に、まず実行してみて、何かに気づく・発見する、ということをしていました。それと似ていますよね。

地方と若者をつなぎ、地域活性化の伝道師と呼ばれる大宮さんの原点が、そこに垣間見えました。



研修参加者に、小布施町の取り組みを説明する大宮さん

青少年赤十字(JRC)の海外研修に参加した二人の若者。想像もしなかった世界との出会いが、二人に大きな気づきを与えました。

青少年赤十字で 広がる世界



鴨志田さん(写真:左)とネパールのNGOスタッフ。モデル地区では一般家庭に生ごみを堆肥化するコンポストを設置、できた堆肥をトラックで回収する。ごみ問題、農作物の収穫向上、雇用創出など、社会課題と向き合う事業はネパール政府からも称賛される。

現在

ネパール政府公認NGOで活動中

鴨志田 純 さん

高校の数学教師をしながら父のこした農園も営む多忙な生活を送っていたが、2016年にネパールのNGOのサポートを始めたところ、社会課題に取り組む活動が認められ、昨年、ネパール政府より農業教育を含む農業政策支援のオファーを受けた。政府指定のモデル地区で着実な成果を出し、隣国バンラデシュの政府公認NGOからも依頼を受けるまでに発展した。



1999年(当時13歳)

(左から2人目)

三鷹市立第四中学校JRC部でラオス訪問

13歳の夏、ラオス。あの時の心の交流が僕の人生を変えた

昨年、日本での教師の職を辞してネパールに移住した鴨志田純さん(32)。ネパールの社会課題を自らの課題とし、その課題解決を職業にした彼は、中学時代のラオスでの経験が、自分の生き方を決定づけたと語ります。

「ラオスでは、言葉が通じなくても、心が通じました。優しく温かい心を持ったラオスの人々、彼らと心で触れ合えたことが、うれしかったですね…。さらにラオス赤十字社の案内で観光地ではない地域も訪れ、大きく気持ちが変化しました。「舗装されていないデコボコ道を4時間近くバスに揺られて村にたどり着きまし

た。村の小学校を訪問して、愕然としました。校舎も校庭もひどい状況で、雨漏りのせいで机や椅子もボロボロ、こんな場所で勉強できるのか、と。一方で、歓迎してくれた村人は大人も子どもも、みんな輝くような笑顔で、生き生きとしていた。その訪問で『ラオスの人々やこの村のことを、日本の子どもたちに伝える仕事がしたい。…教師になったら、それができると考えました。そして、できるなら日本国内だけでなく海外でも教師ができるようにと、苦手だった数学を克服して数学教師になりました。『社会に出たとき一番大切な力は、自分で問いを立て、自分で解いていく力だと思います。振り返るとJRC活動は、そんな経験がたくさん詰まった場でした。』課題解決に立ち向かう鴨志田さんの挑戦は、これからも続きます。

青少年赤十字 JRCとは?

誰の心にもある「苦しんでいる人を助けたい」という気持ち、それを行動に移すのが赤十字の精神です。青少年赤十字(Junior Red Cross=JRC)では、奉仕活動やケガの応急手当て、防災教育プログラムなどで他者や自分を救う・支えることを学び、国際交流で世界と助け合う精神を養います。日赤は、「自ら気づき、考え、実行できる人」として成長できるように、さまざまな学びの機会を提案しています。

詳しくは公式サイトへ www.jrc.or.jp/activity/youth/about/



田角 章一 さん(写真:右) 元・日赤東京都支部 青少年赤十字担当

鴨志田君は、高校生に交じて中学生でJRCの国際交流事業に参加しました。帰国後の作文には「日本でJRCの活動中もラオスのことを思い出す。そして気がついたのは、清掃や老人ホーム訪問など、身近なことから行えるボランティア活動には、得るものがたくさんあるということ。出会いの喜び、感謝されるうれしさ、心と心が触れ合う経験ができる」とありました。ラオス派遣だけでなく、さまざまなJRC活動を通して「教わるのではなく、気づく」経験をし、彼の純粋で豊かな感性は、さらに磨かれたようです。



2005年(当時16歳)

(右から2人目)

群馬県立高崎高等学校JRC部でモンゴル訪問



齊藤 敏明 先生(写真:右) 元・群馬県青少年赤十字指導者

群馬県JRC高校生協議会の副会長だった大宮君は、「皆で楽しもう!」というスタイルで県のJRCをけん引していました。JRCでは大人が何かを強制するのではなく、生徒自身が考えて課題に気がつく、そういう経験ができます。例えば商業施設の前で募金活動をする場合、生徒が施設の人と交渉します。自ら社会と向き合い、考え、自分たちの意思と知恵で物事を前進させ、解決しようとするのです。大宮君をはじめ、積極的にJRC活動を行った子たちは、そういった活動を通して自信を持ち、成長したと感じています。

世界の広さと複雑さ… いろんな可能性に、気づかせてくれた

「献血の呼び掛け、義援金の募金…他校と連携するJRC活動、楽しかったな。『～しなさい』と強制されたことはなくて、何でも自分たちで決めて進めていましたね。そう語るの、大宮透さん(30)。現在、地方を元気にするコンサルタントとして、全国から講演や仕事の依頼が絶えない大宮さんは、高校時代、生徒会活動の傍らJRC部にも所属していました。初めて参加した献血推進のボランティアで献血の必要性を知り、献血ルーム職員との対話から「人の役に立つ活動」と実感。その活動を「奉仕」や「義務」と感じたことはなかったそうです。

「今でも鮮烈に覚えているのが高校1年時に参加した3泊4日の国際交流集会。全国から集まったJRCメンバーと共に、海外メンバーとの文化交流やディスカッションを経験しました。海外メンバーの意識の高さに驚き、濃密な4日間を過ごして地元・高崎の街に戻ったら、いま

TOPICS

「赤十字救急法」講習が4月からリニューアル

「止血帯」で救える命があります



ボストンマラソンのテロで負傷した男性。太ももには止血帯

写真：AP/アフロ

止血帯が 全米で 普及した背景

2012年、アメリカの小学校で銃乱射事件が発生し、児童20人を含む26人が犠牲になりました。止血帯があれば守られたはずの幼い命。この事件をきっかけにホワイトハウス主導でキャンペーンが始まり、止血帯が全米に広まりました。米国では消防や警察のほか、市民にも普及しており、200人以上が負傷した2013年のボストンマラソン爆弾テロで、死者がわずか3人とどまったのは消防や市民による止血帯での救命効果だともいわれています。

出血死から命を守る

テロなどによる爆発物や銃乱射が原因の外傷による大量出血には、止血帯(ターニケット)を用いた止血法が効果的といわれています。日本でも、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを間近に控え、想定しておかなければならないテロ災害などの救急現場において、適切な止血処置は重要課題です。出血死から命を守る新たな方法の一つ、止血帯止血法に取り組むため、4月にリニューアルされる「赤十字救急法」でも、止血帯止血法のプログラムが加わります。

止血帯とは？

止血帯はターニケットとも言い、出血を抑えるために四肢に使用する専用の医療機器です。事故や災害などで手足の太い血管が損傷した場合に使用し、片手でも止血が可能です。



幅広のバンドに締め上げるための棒状のロッドがついている。ロッドを固定したら、上からストラップをして装着時刻を記入し完了

国内第一人者が教える<止血>の重要性

危険な大量出血には止血帯が有効

近年、世界中で多様な形態のテロ災害が発生しており、これまでのように血流量を減らす直接圧迫止血法では間に合わない可能性も増加しました。そのため出血により生命の危機が迫っている場合は、止血部位の中樞を緊縛する「止血帯止血法」も知っておく必要があります。



山口芳裕教授

杏林大学医学部付属病院高度救命救急センター長。東京都災害医療コーディネーター、東京DMAT運営協議会会長も務める。

使用には正しい知識と技術の習得を

これまで止血法といえば三角巾を使った緊縛法が一般的でしたが、専用の止血帯・ターニケットを使用することで、力を使わず簡単に素早く止血することが可能です。とはいえ、すべてのケガにこの方法が向いているかといえばそうではありません。上肢や下肢が切断されていたり、それに近い状態で直接圧迫止血法でも止血できないような大量出血の場合のみに限定して用いることが大事です。必要がないのに止血帯を用いた場合、「ターニケットペイン」と呼ばれる合併症に悩まされることも。どのような傷に向いているのか、止血帯の正しい知識と技術を習得する必要があります。万一の時に備えて、より多くの人に大事な命を救う技術を身につけていただきたいです。

使い方を学ぶ市民講座に100人が参加

昨年11月に神奈川県横浜市で開かれた止血帯の使い方講座に、老若男女約100人が集まりました。会場では、山口芳裕教授らの講義と止血帯止血法のワークショップを実施。実際にターニケットを触った女性は、「私でも力を入れずに圧迫できました」と感想を。三角巾を使った緊縛法との違いについてなど、熱心に質問をする姿が目立ちました。



グループごとに指導者がつき、全員が実物を体験。学生や赤ちゃんを連れた女性も積極的に参加した

新しくなった！ 赤十字救急法講習

今年4月、傷や急病などの応急手当を学ぶ救急法講習がリニューアルします。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて「赤十字救急法救急員」を目指しませんか？



※講習については、日赤各都道府県支部にお問い合わせください。

TOPICS

防災・減災プロジェクト

～私たちは、忘れない。～



災害について備え、防災意識を高めよう

近い未来に必ず起こるといわれている首都直下地震や南海トラフ地震。

3月1日スタートの「防災・減災プロジェクト」では、「備える」をテーマに日頃から災害に備えて

おくことの重要性を訴えていきます。プロジェクトに共感いただいた多くの企業・団体とともに、災害時の被害を最小限に抑えるため、そして大切な人を守るために、防災啓発を進めます。

今年度のメインコンテンツ



日本赤十字社 Japanese Red Cross Society x kurashiru

在宅避難時の「食の備え」の大切さを伝える

プロジェクト特設サイト「つづけるサイト」では、人気のレシピ動画サービス「クラシル」と日赤がコラボしたスペシャルコンテンツ「Sonaeru Gohan」を3月1日より公開します。在宅避難時の限られた環境で、少しでもおいしいごはんを食べるための動画コンテンツが充実。災害への「備え」として、ぜひご覧ください。



手作り経口補水液



カレーにうどん(乾麺+レトルト)



チャーハン(アルファ化米)

フェーズ1 (発災直後)
発災直後、まずは忘れがちな水分補給と簡単ですぐにできる食事を。

フェーズ2 (発災数日後)
インフラが復旧しない。そんな中でも、おいしいごはんを食べたい。

発災前の備え
日ごろの備えの大切さ。ローリングストック*の指南とレシピを提案。

*備蓄食品を賞味期限が切れる前に日常の食事で使い、消費した分だけ追加する備蓄方法。

防災・減災コンテンツは**3月1日**から公開。
「Sonaeru Gohan」コンテンツもこちらからどうぞ。



つづけるサイト jrc-tsudukeru.jp

ドキドキ体験! みんなのボランティア vol.8

* 在宅訪問ボランティア *

at 富山市内のひとり暮らしの高齢者宅



「待ちました!」
と言わんばかりにお出迎えをしてくれました。

一人になって、
ご飯を作るのも
おっくうで...

「夫を亡くしてからご飯を食べることさえもおっくうになってしまった」と語りしんみり。「いい思い出をつくりましょう!」と元気づけるボランティア。

奉仕団からはカイロとタオルをプレゼント。



手づくりすごろくやかるたで盛り上がります。「好きな食べ物や趣味などを言うマスをつくり、会話のきっかけになればと思いました」と小学生たち。

ひとり暮らしの高齢者を小学生とともに訪問

富山県の赤十字奉仕団が行う「ひとり暮らし高齢者宅訪問活動」に参加しました。高齢者の方に楽しんでもらえるよう、プレゼントや手づくりのゲームを用意して当日を迎えます。今回は青少年赤十字に加盟している小学校6年生と一緒に訪問。ボランティア(奉仕団)は高齢者の方と児童とのパイプ役として楽しい時間が過ごせるようにサポートします。久しぶりの子どもたちとの交流に高齢者の方は笑顔を見せ、子どもたちもすぐに打ち解けました。「こんなに楽しいことがあるなんてもっと長生きしたいわ」と喜ぶ高齢者の方の言葉にひと安心。思い出に残る楽しい時間を作る活動でした。

お住まいの地域の窓口はウェブサイトでもご案内

jrc.or.jp/volunteer/search/



※ボランティアの活動内容や受け入れ状況は地域によって異なります。詳細は日赤支部にお問い合わせください。

こんにちは。40代の主婦、あかいとうこ赤井十子です!子育てがいち段落してできた時間を活用して、困っている人や地域の役に立つ方法を探しています。



AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

佐賀県 日赤の防災教材を活用して 園児たちが「きけんはっけん！」

日赤佐賀県支部は昨年12月12日、佐野常民の生誕地・川副町にある「博愛の里こども園」を訪問。約40人の年長の園児に対して、防災をわかりやすく伝える取り組みを実施しました。当日は幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさいまちがいがさし きけんはっけん！」を活用。イラストを盛り込んだ親しみやすい内容で、園児たちは楽しみながら防災に向き合っていました。



「ここ危ないよ！」目を輝かせながら教材に関心を示す園児たち

九州ブロック 九州八県の心を一つに！ 8支部合同の災害救護訓練を実施

12月2日・3日にかけて「九州八県支部合同災害救護訓練」が佐賀市で開催されました。この訓練は九州の日赤各支部が毎年持ち回りで実施しており、今年は佐賀県支部の開催で約300人が参加。訓練では、佐賀県支部庁舎に災害対策本部を設置し、情報収集や本部機能を確認。また、合同救護所では各支部の救護班が協働し、関係機関との連携強化にあたりました。



各県の支部や病院からスタッフが集結

全国 献血には誰かを想う心の温もりがある！ 俳句コンテスト受賞作が決定

昨年12月8日、「日本赤十字社 第13回 赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」の表彰式が日赤本社で開催されました。いのちの尊さや助け合いなどをテーマに公募、今回は13万句を超える応募作品の中から厚生労働大臣賞や文部科学大臣賞など15人の作品が選ばれました。

選者を務めた俳人・神野紗希氏は「どの句もやさしく、心が自然と温かくなるようなものばかりでしたが、それは誰かのことを想う気持ちが込められているからだと思います。俳句の季語と一緒に詠まれることで、献血が日常の一コマとして入り込み、生活の中であたり前にあるものだと思わせてくれました。このような素晴らしい句が今後も広まり、献血の大切さや一人一人の温もりが知られていくことを願っています」と講評を寄せました。



献血キャラクター・けんけつちゃんも登場して受賞者たちを祝福

主な受賞作品
厚生労働大臣賞「大通り 木陰の下に 献血車」
(鹿児島県 坂元綾花さん/中学生の部)
文部科学大臣賞「てをつなぎ 新芽のにおい かけたした」
(東京都 西村咲良さん/小学校高学年の部)
日本赤十字社 社長賞「香る草はら 手を取り見上げる オリオン座」
(神奈川県 浅沼侑奈さん/高校生の部)
日本赤十字社 血液事業本部長賞「暑い夏 ママの献血 応援だ」
(福井県 角谷優斗さん/小学校低学年の部)
けんけつちゃん特別賞「雪が舞う 献血終わりの コーンスープ」
(埼玉県 矢作紀子さん/一般の部)

埼玉県 初詣でにぎわう年末年始の神社に 毎年恒例の臨時救護所を設置

日赤埼玉県支部では昨年12月31日～1月3日の年末年始4日間にわたって、さいたま市大宮区にある武蔵一宮 氷川神社に今年も臨時救護所を開設しました。支部職員やボランティア、日赤病院の看護師たちが参加し、けがや体調不良者の手当てのほか、迷子の受付、乳児の授乳・おむつ交換の場所提供など約220万人の初詣参拝者の安心・安全を見守りました。



大きな混乱もなく2019年が無事にスタート

京都府 車いすフェンシングの世界大会で 赤十字京都ユースが選手をサポート

昨年12月13日～16日に開催された「車いすフェンシング ワールドカップ 京都大会」に、赤十字京都ユース(青年赤十字奉仕団)がボランティアスタッフとして参加。赤十字京都ユースのメンバーは、車いすの固定や競技用センサーの装着など、参加選手のサポートにあたりました。車いすフェンシングは2020年東京パラリンピックの正式競技にも採用されています。



日本初開催となった今回のワールドカップには212人の選手が参加

福島県 福島赤十字病院が新築移転 命と健康を守る新拠点に期待集まる

新築移転した福島赤十字病院は、1月1日に開院し、4日からは外来診療を始めました。それに先立ち12月8日に開催された内覧会では原子力災害拠点病院としての機能などを市民に向けて説明しました。原子力災害拠点病院や原子力災害医療協力病院に指定された日赤施設は全国に20カ所。福島赤十字病院も、有事の際には中核的役割を担うことが期待されています。



病床数296床で1階に救急センター、屋上にはヘリポートを設置

群馬県 大切な人が、健やかに暮らせるように… 「健康生活支援講習」指導員になろう

日赤が全国で開講する講習の1つ「健康生活支援講習」。超高齢社会を迎え、その需要は高まっています。指導員になるには、かつては看護師資格が必要でしたが、現在は養成講習を受けることでどなたでも指導員になることができます。昨年12月、日赤群馬県支部では初めて看護師でない方も加えた指導員養成講習を開催。普及を共に進める指導員が、新たに12人誕生しました。



新しい指導員の多くは赤十字ボランティアとして活躍してきた方々

茨城県 福井県 病院に響き渡る児童・生徒の歌声 クリスマス会で入院患者らを笑顔に

12月14日、福井赤十字病院の緩和ケア病棟でクリスマス会が開催されました。越前市の特別支援学級に通う11人の児童たちがステージに立ちました。入院患者は「とても心が癒やされた」と笑顔に。また12日には、水戸赤十字病院で今年21回目となる恒例のクリスマスコンサートが開かれ、100人以上の観客が集まりました。県立水戸三高の生徒たちによる合唱披露に会場が聞き入りました。



児童たちはサンタ帽をかぶった姿でクリスマスソングを披露

「知って良かった!健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える 知って良かった!

健康豆知識



「花粉症」対策は気長に、コツコツと

松山赤十字病院 呼吸器内科部長 兼松貴則 医師 (かねまつ たかのり) 愛媛県松山市文京町一番地 TEL:089-924-1111 (代)

立春の頃から、多くの人が悩まされる花粉症。花粉症は「食生活・ストレス・汚れた排ガスなどが原因」と耳にすることが多いですが、それらの後天的な要因よりも、人それぞれの幼少期に育った環境で培われた抗体の種類や数によって、将来的に花粉症を発症する可能性が高まるというデータがあります。自然豊かな環境で育った人は、さまざまな抗体が体内に蓄積されるので、発症する人が少ないようです。また、風邪などの病原菌による病気とは異なり、花粉症はアレルギーの1つなので、免疫力を高めると花粉症の症状が和らぐということはありません。アレルギーは、体を守ろうとする免疫の過剰な反応で引き起

こされます。すでに発症している状態では、むしろ免疫の反応を抑えることに治療の重点が置かれます。ここ数年、アレルギー症状を抑える効果をうたった乳酸菌入りの食品などが販売されています。乳酸菌は腸の免疫機能を整える効果があり、体調管理の上でも適切な量を摂取することはおすすめできます。とはいえ、やはり花粉症は専門医の指示に従って治療しましょう。治療薬を舌の下に投与する「舌下(げっか)免疫療法」は自宅で服用でき、スギ花粉やハウスダストなどのアレルギーをお持ちの方に高い効果が期待できます。本気で対策に取り組むなら、少し先になりますが、今年の10月～11月に治療を始めましょう。



まずは花粉対策、基本の基。玄関に入る前に服の花粉を落とし、家中に持ち込まないこと

file. 53

「海外救援金」受付期間 延長いたします

中東地域での紛争により人道支援を必要としている人はシリア・パレスチナ・イエメンだけでも約3700万人といわれ、その周辺国のみならずヨーロッパ諸国まで影響を及ぼしています。また、ミャンマー・ラカイン州での暴力行為により、隣国バングラデシュへ逃れた避難民は70万人に上ります。生活が困難な地域、人々を支援するため、下記のとおり受付期間を延長しました。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

- 義援金名称: ①中東人道危機救援金 ②バングラデシュ南部避難民救援金
- 受付期間: 2020年3月31日(火)まで
- 協力方法: 郵便振替によるご協力 (ゆうちょ銀行・郵便局) 口座記号番号 00110-2-5606 口座加入者名 日本赤十字社 (ニホンセキシュウジヤ)

※上記①へのご協力は、通信欄に「中東人道危機」と明記してください 上記②へのご協力は、通信欄に「バングラデシュ南部避難民」と明記してください ※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料は免除されます。(ATMによる通常払込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります) 郵便振替のほか、銀行振込クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyでもご協力いただけます。詳しくは、日赤のサイトをご覧ください。

日本赤十字社 国内義援金・海外救援金への寄付

検索

http://www.jrc.or.jp/contribute/help/



レバノン難民キャンプに暮らすシリア難民の子どもたち ©Andrew McConnell/IFRC

第93回代議員会開催公告

平成31年3月20日(水)、午後1時から新霞が関ビル「全社協・濑尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第93回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。平成31年2月1日

記

- 第1号議案 役員を選出について
- 第2号議案 平成31年度事業計画について
- 第3号議案 平成31年度収支予算について

常任理事会開催報告

平成31年1月18日、本社において平成30年度第9回の常任理事会が開催されました。1 規則の改正について (日本赤十字社職員給与要綱の一部改正について) 審議の結果、規則の改正については原案のとおり議決されました。また、医療施設特別会計および資金特別会計における公益法人会計基準の導入、「日本赤十字社長期ビジョン」策定にかかる進捗状況ならびに予算の補正にかかる12月分の社長専決事項等について、それぞれ報告しました。

present プレゼント

幼児向け防災教材 「ぼうさいまちがいがさし きけんはっけん!」 3名さまに



幼児が学ぶ間違い探し形式の防災教材。自分の身を守るための知識や判断力を身につけることを目的とした、遊びながら学べるセットです。 ※この教材はグループ学習用です。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。 ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨をご記入ください) ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字 NEWS 2月号を手に入れた場所 (例/献血ルーム) ⑥2月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか? (いくつでも) A.表紙 B.青少年赤十字で広がる世界 C.「赤十字救急法」講習が4月からリニューアル D.防災・減災プロジェクト 私たちは、忘れない。 E.みんなのボランティア F.エリアニュース G.健康豆知識 H.プレゼント I.ワールドニュース J.1枚の写真から ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS 2月号プレゼント係 FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字 NEWS 2月号プレゼント係」) 2月28日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

WORLD NEWS

ボスニア・ヘルツェゴビナの移民[※]流入問題



昨年11月末、トルコ赤新月社からの支援物資を積んだトレーラーがボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボに到着(トルコ国営放送「TRT日本語」から許可を得て掲載)

マイナス15度の極寒の地で 苦境に立たされる5300人以上の移民たち

2018年に入り、中東からの移民の流入が激増したボスニア・ヘルツェゴビナ。厳冬を乗り越えなければならない移民を日赤もサポートしています。

既存ルートの閉鎖によって 行き場を失った移民が集中

2018年に入り、ボスニア・ヘルツェゴビナは前年の約45倍を超える移民が流入し、深刻な問題となっています。移民の多くは中東のシリア難民やパキスタン、アフガニスタンなどの国々の出身で、彼らが目指しているのは、より安全で豊かな欧州連合(EU)加盟国です。しかし、南東ヨーロッパのバルカン半島に位置するボスニア・ヘルツェゴビナから隣国への移動を制限された5300人以上の移民が、足止め状態のまま厳しい冬を迎えています。

EUでは2016年にギリシャからマケドニア、セルビアを通る西バルカン・ルートを開鎖しました。その結果、ボスニア・ヘルツェゴビナからEU加盟国のクロアチアに入る代替ルートに2018年初頭から移民が集中。この1年で2万3000人以上の移民がボスニア・ヘルツェゴビナに入ったとされています。そして今もなお、多くの人々が、クロアチアとの国

境付近に取り残されたままとなっており、その数はますます増加していくことが見込まれています。

温かな食事と衣服、そして医療で 移民たちの命を守りたい

移民たちにとってボスニア・ヘルツェゴビナはあくまで通過国でしかなく、最終目的地のEU諸国に到達するめどは立っていません。国際赤十字・赤新月社連盟によると、隣国のEU加盟国であるクロアチアへ入国するために国境を越えようと試みる移民も多く、日々何十人もの負傷者が出ているとの報告もあります。また、彼らが寝泊まりしている場所は、仮設テントや遺棄された建物など。本格的な冬を迎えた現地の気温は例年マイナス15度まで下がることもあり、低体温による健康リスクへの対応が急務となっています。

現地の対応にあたっているボスニア・ヘルツェゴビナ赤十字社は国内の主に6カ所の収容センターで、移民たちに温かい食事や衣服

の提供、医療活動、衛生支援などを継続的にを行い、その他にも巡回チームを派遣して応急手当などを実施。さらに、移民受け入れに伴う地元住民の負担を減らすことを目的に地元住民に対する同様の支援も進めていく予定です。また、トルコ赤新月社をはじめとする周辺国からも、住居用の支援物資などが続々と現地に届けられています。

日赤は、ボスニア・ヘルツェゴビナ赤十字社による緊急救援活動を支援するため、1000万円の資金援助を行いました。



収容センター内ではボスニア・ヘルツェゴビナ赤十字社のボランティアによる炊き出しが行われている



避難所が不足し、多くの移民が遺棄された建物などで暮らす

※ 本来の居住地を離れて、移動している人を広義的に指しています。



炊き出し中のヌルヤーティさん



共に苦難に立ち向かう

インドネシア・スラウェシ島を地震と津波が襲った2018年9月28日の3日後から、インドネシア赤十字社のボランティアとして活動に参加していた2児の母、ヌルヤーティさん。彼女は、各地から集まってくる救援活動に携わるボランティアの人たちのため、1日3食の食事の準備と片付け、ボランティアの人たちが寝泊まりする施設の清掃を行っていました。そんな彼女も津波にのまれ意識を失い、軽傷ではあるもののけがを負った被災者の一人。

自身も被災者でありながらもボランティアとして奮闘するヌルヤーティさんは、幼いころから赤十字のメンバーとして活動しており、「赤十字精神は私の一部」と語ります。

語り 日本赤十字社国際部 片岡昌子